

やちき通信

272号

1月20日現在
子ども会員：92人
正会員：37人
賛助会員：232人
28団体



キッズチャレンジ エキスポ in 呉市



しりたがり	2
おとな塾	3
特集～冬物語～	4
鑑賞部～キナコちゃん～	5
ティーンズ+	6
祝ハタチ/DIVE IN	7
キッズチャレンジエキスポ	8

ゆまもと か ずこの 知りたがりやトーク

あけましておめでとうございます。本年も YYY をよろしくお願ひします。寒～い年明けでしたね。2日は午後から大雪で、山陽道は大渋滞だったそう。私は、めったに無いことですが、家から一步も出ずにTVにかじりつき、箱根駅伝も堪能できました。周りの人からは、じゃけえ雪が降ったんよ！と犯人のように言われましたけど。とにかく、あつという間にお休みは過ぎていき、1月も終わろうという今日この頃ですが、みなさんいかがお過ごしですか？1月は往ぬる、2月は逃げる、3月は去る、って昔の人はいうまいこと言ったもんですね。まさにその通り！

新年早々、何を書こうかと思っていたタイミングで、スマホに久米宏さんの訃報が。ぴったしカンカン、ザ・ベストテン、ニュースステーション…久米さんが司会をしておられた番組はどれも大好きでした。ネット上では、多くの人の久米宏論が繰り広げられていますが、その内容のほとんどは、彼に対する尊敬や称賛です。中でも異口同音に伝わってくるのは、久米さんは大物政治家、有名スポーツ選手、人気絶頂の芸能人…誰に対するときも(百恵ちゃん以外)、同じ立ち位置で接しておられたというエピソード。自分で考えたことをベストの距離感で率直に発信する。自分的にはそういうことを学ばせて頂いたように思います。最近よく耳にする「忖度」というワードとは縁遠い方でした。

縁と言えば、昨年末に実施した「キッズチャレンジエクスポおしごと体験」で、たくさんの素敵なご縁をいただきました。ひょんなことで引き受けることになった「キッズチャレンジエクスポ」ですが、他団体と一緒に事業を進める大変さを実感。YYYで

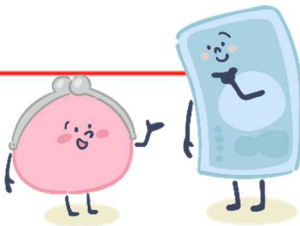


は、ありえないって思うことだらけでした。ぎりぎりになって講座の引き受け先から断られたり、変更になったり。いったいどんな進め方をしたらそうなるん？！って、めっちゃ腹が立ちました。こちらは、その都度、会場を借りなおしたり、書類を追加で作成したり…。気軽に引き受けるんじゃないかった！と当日までは本当にそう思っていました。

しかしながら迎えた当日、出会った講師の方々があまりに素敵で、前日までとは打って変わり、“やってよかった！”と心からそう思いました。まずは、子どもたちへのかかわり方、教え方が素晴らしい。参加した子どもの年齢や集中力に合わせて指導して下さり、たった45分間でその面白さや大変さ、ちょっとしたコツを伝授して下さいました。私たちスタッフも子どもたちに混ざって、いろんな体験をさせて頂き、講師の方それぞれの仕事に対する思いを伺うことができました。改めて日本の伝統文化の奥深さや、伝統工芸の巧みな技術が上手く引き継がれていって欲しいと思うと同時に、自分たちにできることについて考える機会となりました。年末年始の多忙な時期にご尽力いただいた皆様、ありがとうございました。おかげで、ちょっとだけ背筋がピンってなりました。

Nextおとな塾

呉市のお財布



講師：綿谷 文宏さん
(呉市財務部財政課長)

【日 時】2月18日(水)19:30～
【場 所】YYY 事務所
【参加費】500円
※事前にお申込みください。

豊かな子ども時代を保障する

今回のおとな塾は、新年一発目！ということで、これからの YYY の方針について考えるべく、「豊かな子ども時代を保障する」をテーマに意見を出し合いました。

とはいえ、「子ども時代の豊かさとは？」と尋ねられてスッと答えが出てくるものでもないので、まず「子どもの成長には何が必要か」について皆で考えてみました。出てきた意見は、「仲間」「信頼できる大人」「愛情」「色々な経験」など様々。自分では思いつかないような意見もたくさん聞けて、なるほど～と、終始うなずきっぱなしでした。

さて、「必要なもの」がいい感じに出てきたところで、グループに分かれて本題の「豊かな子ども時代のためには」と「大人たちができること」を考えてみました。私たちのグループからは、様々な意見が挙



がりましたが、個人的にこれ大事！と思うのが、小さいうちにたくさん失敗をすることと、その失敗をフォローして次の挑戦につなげてくれる環境です。私を含めてですが、最近の子は失敗を恐れて「挑戦」ができず、結果的に「経験」もできない傾向が強いと感じることが多々あり…という感じでこのような意見にまとまりました。他のグループからは子どもたちの経験の場を設ける！などこれまたいろんな視点の意見があって面白かったです。

今回の講座は全体を通して家庭科の授業を受けているような感覚でした！といっても、学校で大人たちとディスカッションをすることはありませんし、何より「大人側の視点」を知ることができてよかったなと思います。

(文：110 番 高 2/フォト：わかめ 高 2)

背筋が伸びる 礒田塾

1月中旬に中国から帰国された礒田先生。帰ってこられたからには、ぜひ話が聞きたい！ということで、急遽「礒田塾」を開催！先生の「最近思うこと、あれこれ」について語って頂いた。

内容は①資本主義の限界/民主主義の落とし穴②権力の腐敗と、その必然的構造、そして③AIの嘘。一見するとバラエティに富んでいるが、この3点に共通しているのは、私たちが漠然と感じている、経済至上主義の弊害ではないかと考える。

お金がお金を生み続けるという話は以前「パン屋のお金とカジノのお金は違う」という本を紹介した時にも書いた。昨今のマーケットや急激な物価高で実質賃金は増えていないといったニュースを耳にするたび、格差がどんどん拡大し続けているという受け入れ難い事実を痛感する。資本主義の限界、賢い人たちはずいぶん前からわかっていたよね。誰かどうにかできんの？半分は諦めモードでは

あるが、急に決まった衆院選、僅かな期待をこめて、投票に行きたいと思う。

今回、一番へへ～って思ったのは③AIの嘘とい

う話。中国の大学で学生にレポートの課題をだすと、何割かは生成 AI に書かせたものが提出されるそう。とここまでなら、近頃よくある話題。そのレポートには、最後にもっともらしい参考文献がずらりと記載されていたそうで、先生が調べてみると、いくつもの実在しない文献が。そう、AIは、それらしいタイトルのありもしない雑誌をでっち上げ、丁寧にページ数まで表記して列挙していたのである。恐るべし AI！そこまでやっちゃうんだ、って感心しとる場合じゃない。AIの嘘を見抜くためには、我々が多角的に物事を捉え、さらなるリテラシー力をつける必要がある！そう再認識した「礒田塾」だった。

(PN：モスコミュール)



三浦雄希&MIKKE

冬物語

Premium Session Vol.6



コンサートの後は、YYY ちょこっと福引。みなさんに福が届きますように。ちなみに中身はあったかグッズ。三浦さん、MIKKE さんが引いた番号に客席は一喜一憂。見事当選した方に YYY の福娘が福袋をお届けすると、皆さん嬉しそうにされていた。

今回も音響照明をはじめ、多くの方のご協力で無事終えることができた。こいつぁ春から縁起がいい!!



YYY 恒例となった Premium Session は、回を重ねるごとにファンが増えてきているように感じる。誘い合って来られたみなさんは、新春のあいさつを交わしながらにこやかに会場内へ。「えっ、この人とあの人が知り合い!？」と、いろんなところでつながりがあることに驚くとともに、支援の輪が広がっていることに感謝です。

MC は、「広島 FM の中高生応援番組 大窪シゲキの 9 ジラジ」の水曜日、アシスタント DJ “とよみか” こと豊島生薫子さん。新年にふさわしく、フレッシュな声とおしゃべりで始まった。冬物語に寄せて MIKKE さんは、ふわっふわの白コーデ♪雪の妖精が舞い降りたみたい。三浦さんはスタイリッシュな黒。お洒落〜♡

さあ開幕！軽快なピアノとのびやかな歌声がたちまち会場全体を魅了した。このお二人では初めてとなるメドレーも。ラテン系の曲では踊りたくなり、しっとり心に沁みる曲には涙する人も。三浦雄希&MIKKE の世界にもっともっと浸っていたい！あっという間の 1 時間。みんな元気をもらい、自分も歌いたくなかったに違いない。

(西川・甲田)

～冬物語アンケート感想より～

1月17日(土)生涯学習センター4F 音楽ホール 参加者 160名

知らない歌もあったけど、MIKKEさんの英語が上手ですごいと思った。楽しかった！ (中学生)

ピアノもボーカルも一流でした。新年初癒しの時間を満喫できました。ありがとう！ (大人)

とても素敵な演奏と歌声を聴けてとても良かったです。ジャズはあまり詳しくないのですが、世代の曲も多く楽しかったです。MIKKEさんの全身を使って奏でる楽器のような歌声、とても素敵でした。(男性大人)



三浦さんのピアノ演奏と MIKKEさんの歌声に癒されました。よく知っている曲もアレンジが変わってとても興味深く聞くことができました。最後の福引きも楽しいイベントでした。新年から元気もらいました。(大人)

最高でした!もっと聴いていたい!!のびやかで羽がはえたような MIKKEさんの歌声。寄り添うような、時に素晴らしくカッコよく演奏される三浦さん。とにかく素敵です。(大人)

キナコちゃんと言えば!? ○○○○!!

私の『キナコちゃんとダンス!!』といえば、給食の時間。「エビフラ～イ!エビフラ～イ!」「ニンジン目!」と大きな口でパクパク、わぁお!ほんとに食べてる!と感動。実のところ私“しるこ”は、とある保育園で給食をつくっています。ウチの園では、エビフライは年に1回出るか出ないか。ニンジンは、メニューによっては見た目で楽しくなるよう型抜きして出します。人気メニューは、お誕生日会によく登場する○○○バーガー。以前は酔いの物とかだったのに、時代と共に様変わりしています。

現代の栄養問題に、現代型栄養失調(エネルギーは足りているのに栄養素が不足)というのがあります。その背景には、魚<お肉といった食事の欧米化、朝ご飯の欠食、孤食やストレスによる偏った食事、加工食品を用いた食事の簡便化といった食生活が。忙

しくても、栄養バランスを意識し、多様な食品の摂取を心掛け、楽しく食事をする環境づくりが大切です。また園では「食育」があり、いろんな食材に触れて、食べ物が体の中でどんな働きをするのか学んだりします。学んだ後は、苦手な食材も頑張って食べたり、お家で「こんなこと聞いたよ」と話題にしたりしているみたいです。家では食べないけど保育園では食べているといった現象も。おともだちと一緒に楽しく食べる雰囲気がそうさせるのでしょうか。キナコちゃんの給食シーンもとても楽しそう。2/15にぜひ観てみて!我が子や孫はどんな風に給食を食べているのかしら。ぜひ話題にしてみてください。



(しるこ)

お父さんと眼いまむかし

私たち世代は、お年頃の娘とお父さん、と聞けば「臭い」「あっち行って」みたいなイメージだけど、今どきはどんな関係?

高校生に聞いてみた。「幼い頃、お父さんと手をつないだ時、2回ギュギュって握ったら、ギュギュって返してくれた思い出が。でも今は口うるさくてガン無視。実は好きだけどね」「今でも仲良し。大型2輪の免許取って、お父さんとツーリングへ行ったよ」今も昔も当然ながら関係性はそれぞれ。しかし、かつてと比べ父親の育児参加は広がってきている。作品と同じように、小さな娘との夜を乗り越えた経験のあるお父さんも少なくないはず。キナコちゃんが成長したとき、2人はどんな関係になるのだろうか?



なんかカッコイイ？

敷居が高い？

学会 に行ってきました！

突然ですが、みなさんは学会に行ったことがありますか？

「ええっ！？『学会』？一生行かないと思ってた！」という方が多いのでは。今回は、そんな知られざる(?)学会の体験についてお話しします！(外国語教育メディア学会、2025年11月22・23日)

この学会は、日本の外国語教育の充実・教育分野のテクノロジー発達を目指すもので、「外国語」には来日留学生にとっての「日本語」も含みます。最近では、AIや機械翻訳の有用性・活用法が、さまざまな言語の学習者を対象に活発に研究されています。

メインイベントは、著名な先生方の基調講演とシンポジウム。基調講演はスピーチに近いもので、シンポジウムは発表後の意見交換が重視されます。チャットで誰でも気軽に意見発信できるため、会場全体で活発な議論がなされました。中学・高校の先生や大学院生も研究発表をしており、研究仲間に出会えた私のモチベーションもグググっと高まります。



また、会場内には教材販売のブースも。「ここの教材授業で使ってるな〜」「これほしいんだよね〜」などとうっかり眺めていたら、先生と勘違いされて名刺を渡されるので、笑顔で受け取っておきましょう(笑) その後の隠れメインイベント、情報交換会(懇親会)もリラックスして大いに楽しんでできました！

今回感じたのは、研究者はAI活用に積極的な一方で、活用法は模索中であるため、教育現場は消極的になりがち、ということ。実際に現場からは「わからないことが多い」との声も。しかし、私としては試しに使ってみて、先生間で意見交換をしながら決める必要があるのではと考えました。

格差が生まれやすい現代の教育では、個別最適化、一人ひとりに寄り添った「学習」が求められ、研究と実践が模索されています。「教育のことは、みんなうやむやにしようとする」との厳しいお言葉も耳にしましたが、「先生」中心の「ザ・教育」の枠を超えた縦・横のつながりの中でできることを考え続ける意義は、小さくないように感じます。(美月)



祝 ハタチ

ハタチの皆さんが生まれた2006年は冬季トリノオリンピックが開催されました。あのイナバウアーからもう20年とは驚きですが、表参道ヒルズのオープンも同年らしく、ますますビックリ。YYYではキャンプに、和菓子にチャレンジ！にと、おや子で大活躍だったちかちゃんもハタチ！おめでとうございます！

無事に国家試験に合格して社会人として頑張りたいと思います。



DIVE IN! vol.2

あかりです。3月15日に「DIVE IN Vol.2」という高校生ライブをやりま。

この「DIVE IN」は、YYYに所属している私たち高校生が中心になって、企画・運営を行っているライブイベントです。たくさんの人に音楽を知ってもらい、音楽を好きになってほしいという私たちの思いが、少しでも伝われば嬉しいです。

昨年8月には「DIVE IN Vol.1」を開催しました。呉高専、宮原、三津田、広高校の軽音部、そして、学校の枠を超えたバンドなど、多くのバンドが出演。学生だけでなく大人の方にもご来場いただき、会場は大いにぶち上がりました。それを見て、音楽は人と人をつなぐものだ改めて実感しました。

「DIVE IN」という名前には、見ている人もステージの熱に引き込み、まるで一緒に「飛び込んだ」かのような一体感を生み出したいという思いを込めています。出演する人も観客も、全員で「DIVE IN」し、最高の瞬間を共有できるイベントを目指してい



前回の様子

ます。「DIVE IN Vol.2」は前回よりもさらにレベルアップ。グッズや広報物の制作、企画書作成なども高校生が中心となって行っています。より多くの人に「楽しかった」「また来たい」と思ってもらえるライブになるよう企画を進めているので、バンドが好きな人はもちろん、音楽が好きな人や、そうじゃない人まで、幅広い人にこのライブに足を運んでもらいたいです。

私たちはこの「DIVE IN」を通して、呉市が若者で賑わい、自分をさらけ出せる場所にしていきたいと考えています。音楽の力で、私たちと一緒に理想の地元をつくる手伝いをしてもらえたら嬉しいです。

(あかり)



2025年小学生のなりたい職業上位は「パティシエ」「会社員」「動画配信者」(第一生命/2025年3月)なの
 だとか。でも知らないだけで、世の中にはたくさんの
 職業があります。この事業は、伝統文化・伝統工芸の
 おしごと体験を通して、これまで大切に引き継がれて
 きた日本の伝統文化・伝統工芸の心髄を子どもたち
 につなげていきたいとの思いで企画しました。学校教
 育の中で、熊野筆など地元の産業を学びますよね。この
 日はそれに加えて、歌舞伎や鼓など、なかなか体験
 できない仕事が広まちづくりセンターに集結。職人の技
 を実際に見て、道具に触れて、はじめは「？」という
 顔だった子どもたちも、やってみたら何かのアンテナ
 がピン!となった様子で、次々プログラムにエントリ
 ーしていました。年明けにはアフタープログラムを実
 施。こちらでは日本舞踊を体験しました。先生の立ち
 姿にならって、姿勢がよくなったかも。(まゆまゆ)



■発行日:2026年1月25日(毎月1回発行) ■発行責任者:米本美千恵

■発行元:特定非営利活動法人 呉こどもNPOセンターYYY 〒737-0051 呉市中央3丁目 11-12PANビル3F

■連絡:0823-24-5646 ■WEB:<http://kure-yyy.org>